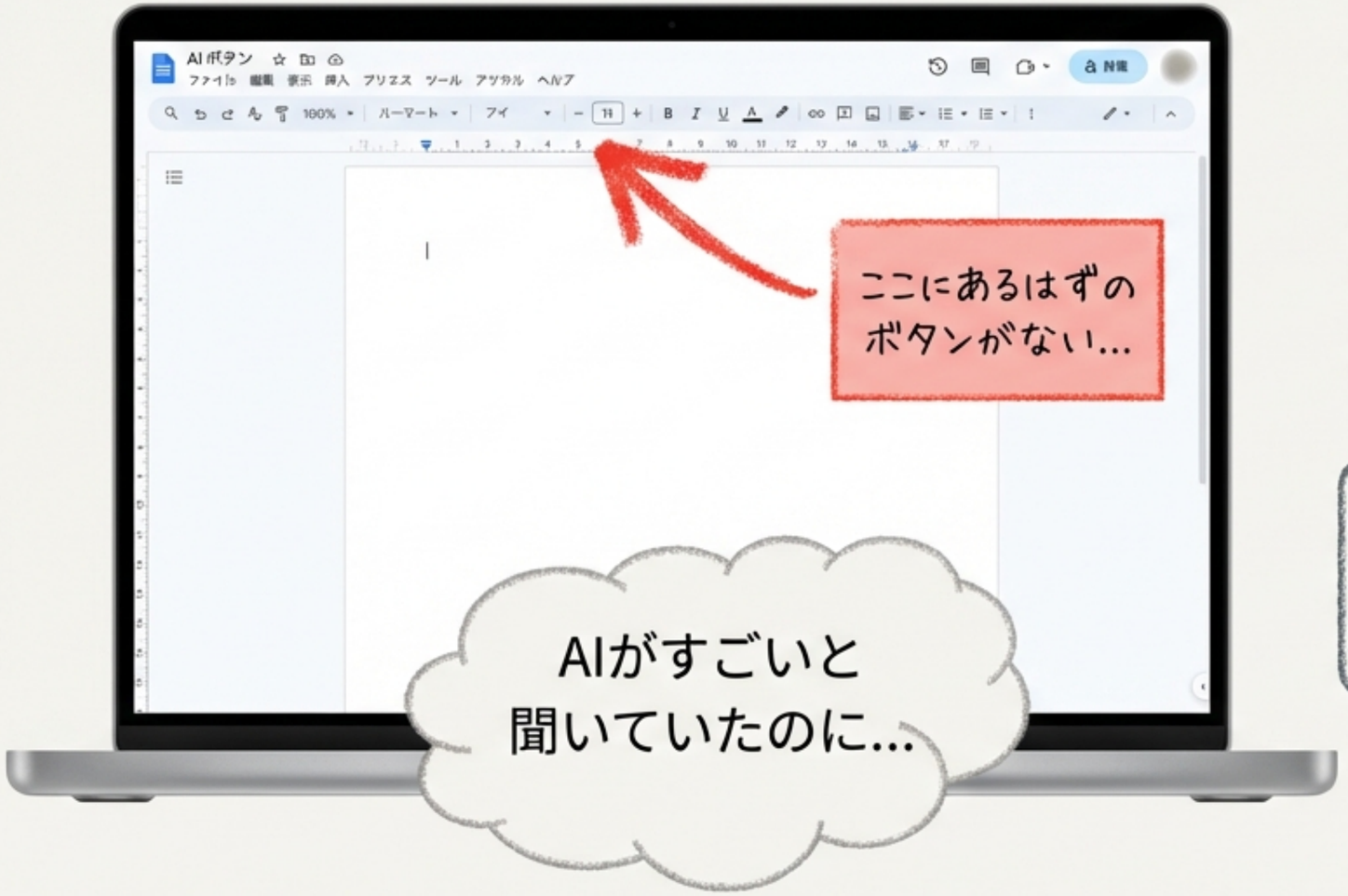
予算ゼロの学校が、今すぐAIで業務を変えるための「現実的なDX戦略」

有料版を待たずに「今ある手札」で戦うための組織論

NotebookLM

なぜ、私の画面には「AIボタン」がないのか？

現場の悲鳴：期待と現実のギャップ



素手で戦う（Fighting Barehanded）

多くの公立学校は「Education Fundamentals（無料版）」で運用されています。AI機能に関しては、私たちは武器を持たずに最前線に立っている状態です。

NotebookLMを使ってみたけど、すぐにエラーが出る

私のGoogle Docsには何も新しい機能が出てこない

NotebookLM

無料版の「限界」と、有料版の「壁」

720円の壁が意味する機能の決定的差異

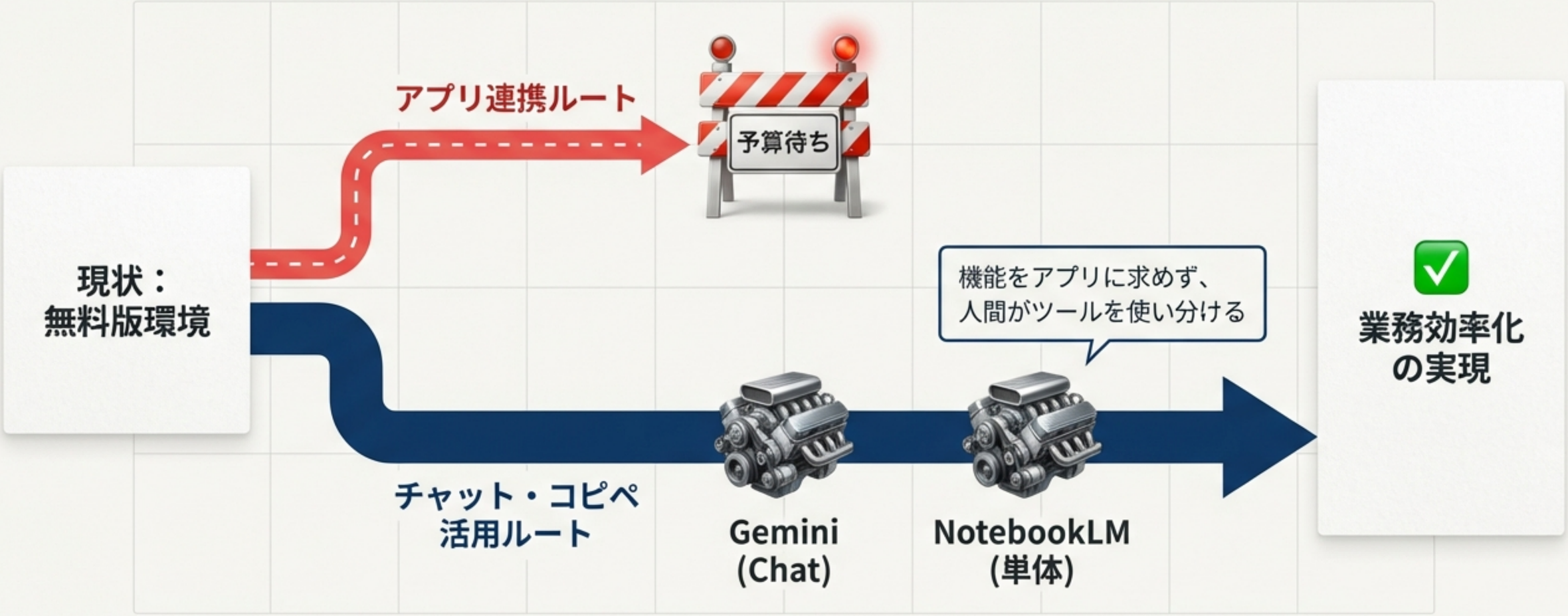
機能	Education Fundamentals（無料）	Education Plus（有料：¥720/人）
Docs / Slides / Sheets	❌ 利用不可	✅ 自動生成・校正・画像作成
Drive（共有ドライブ）	❌ 文脈理解なし	✅ フォルダ横断の読み込み
NotebookLM	⚠️ 制限あり（Cap）	✅ 上限引き上げ
セキュリティ	✅ 学習データ利用なし	✅ 学習データ利用なし

結論：全生徒分の予算（720円×人数）を待つのは、不確定な未来へのギャンブルです。今すぐ動くには、別の手が必要です。

NotebookLM

発想の転換：「ボタン」は諦めて、「脳」を使う

アプリ連携（ボタン）ではなく、組織力（脳）で戦うピボット戦略



NotebookLM

戦略の核：「校内研究部署」の立ち上げ

個人の先生がそれぞれプロンプトエンジニアリングを学ぶのは非効率です。
学校内に「ハブ」となる役割を置き、知恵じを集約・分配します。

作る人は一人。使う人は全員。

NotebookLM

戦術①：「用途に応じたGEM（カスタムAI）」を配る

担当者が作り、現場はコピペするだけ。

Blueprint

研究担当者
(Researcher)

- 指導計画サポートボット
- 通知表所見ボット（箇条書き対応）
- 学級通信ネタ出しボット

Execution

Gemini

・明るい性格
・運動会でリーダーシップ
・算数が苦手だが頑張っている

↓

有料版レベルの成果物

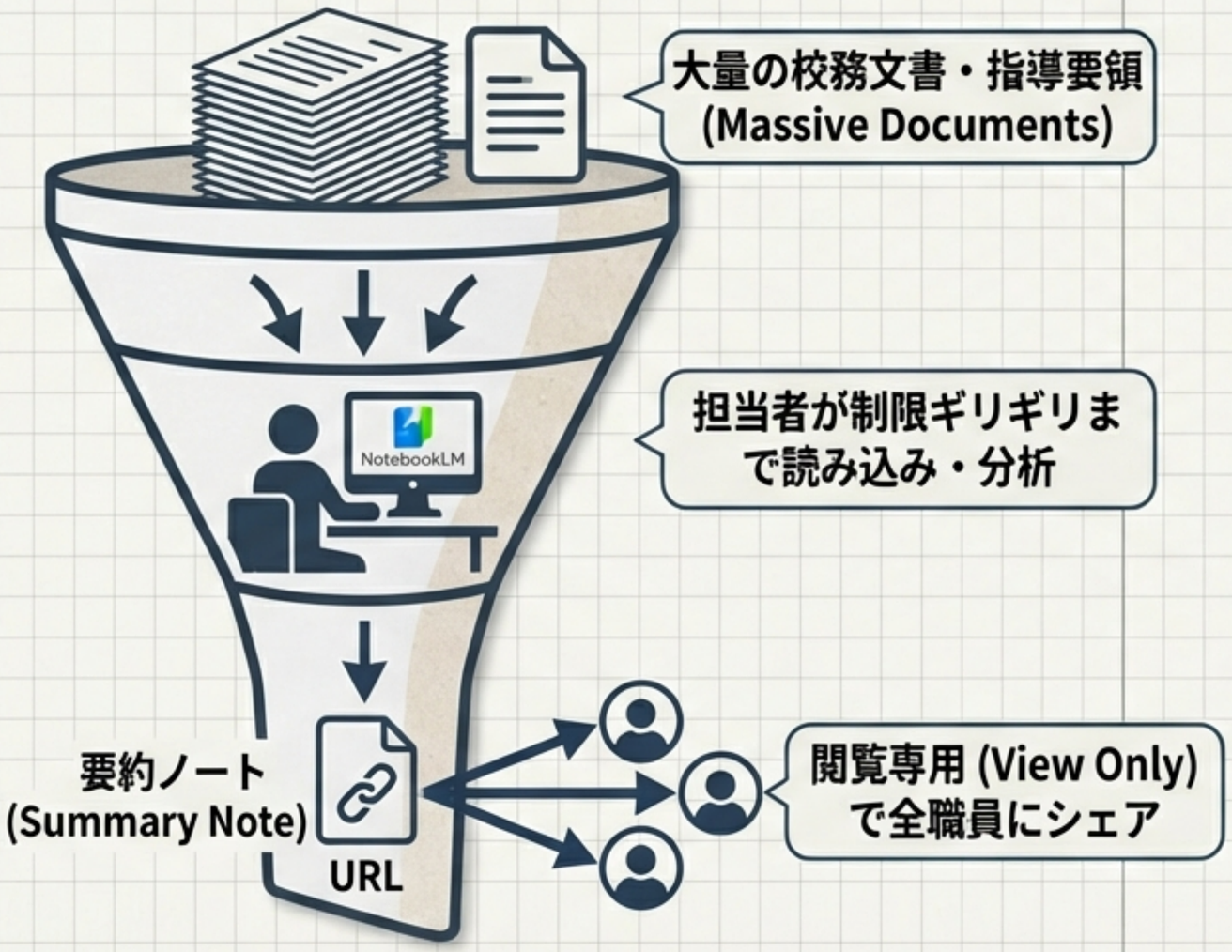
明るく活発な性格で、クラスのムードメーカーとして親しまれています。運動会では応援団長としてリーダーシップを発揮し、仲間を牽引しました。算数には苦戦していますが、諦めずに粘り強く取り組む姿勢が見られ、今後の成長が期待できます。

先生の作業は「箇条書きを入れる」だけ。プロンプトの工夫はハブが一括して行います。

NotebookLM

戦術②：NotebookLMで「共有知」を作る

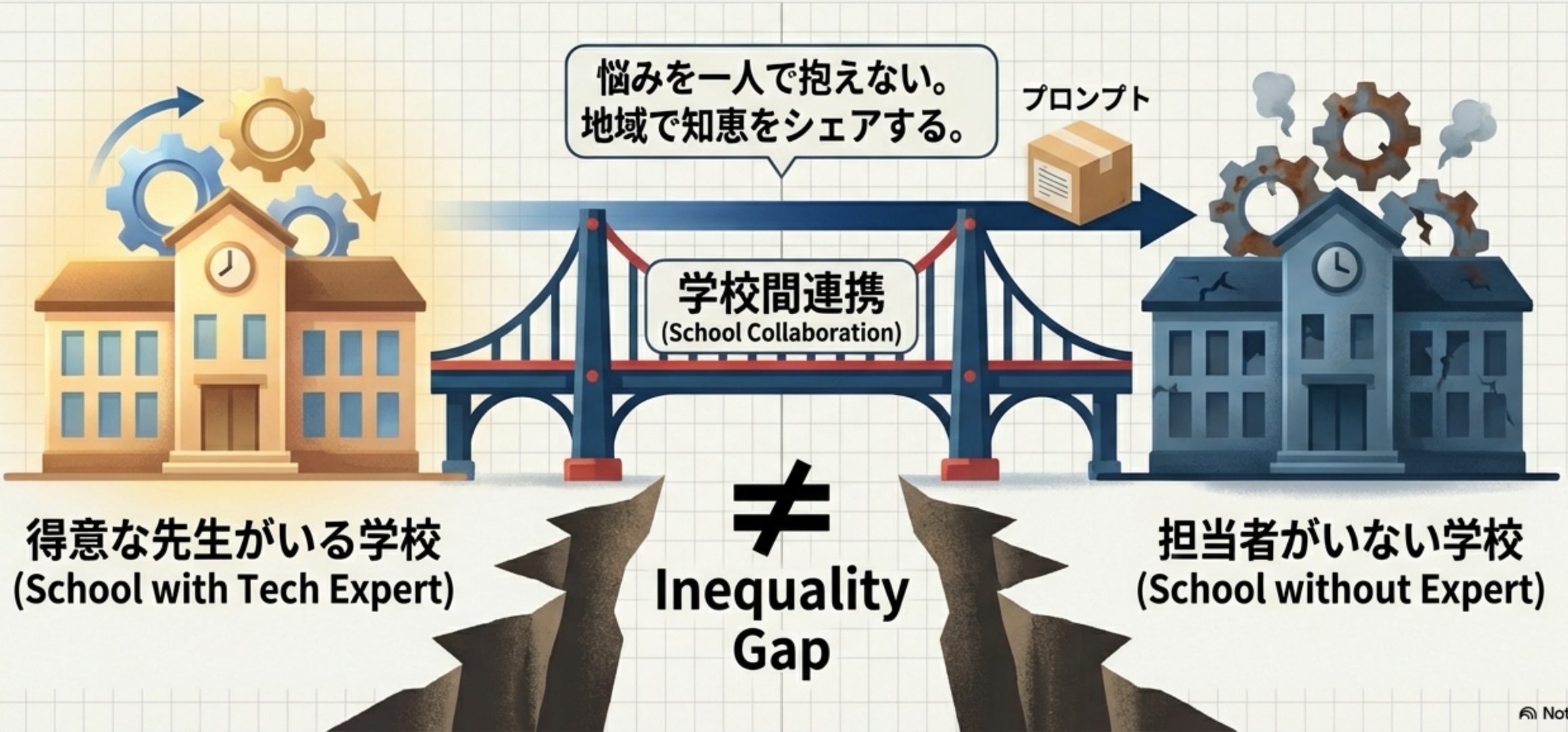
無料版の「Cap（制限）」を突破するリレー方式



無料版では全員が分析を行うとすぐに制限にかかります。
誰か一人が重い処理を行い、そその「結果」だけをシェアするこ ことで、全員が AI の恩恵を受けられます。

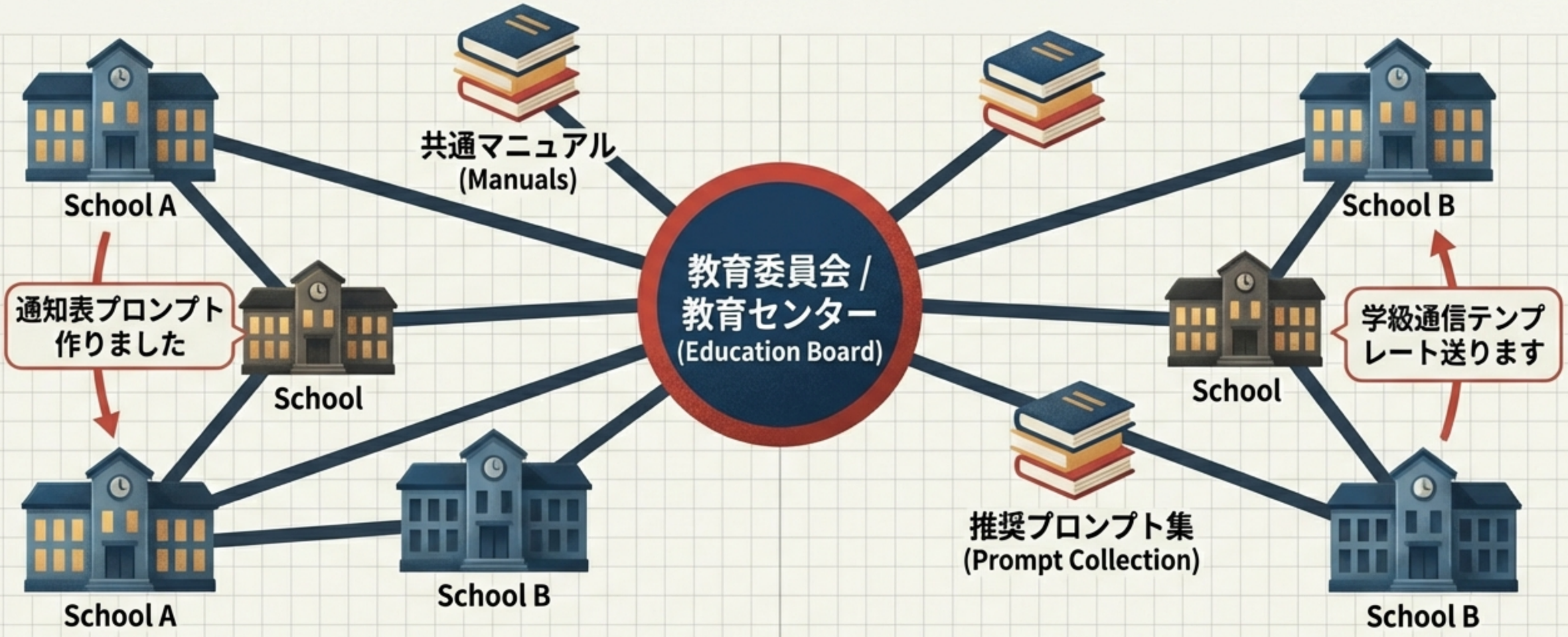
リスク：「学校間格差」の発生

一校だけで完結させようとすると、限界が来る



NotebookLM

理想形：教育委員会・連携校による「共同開発」



開発コストを分散し、どの学校でも質の高いAI活用が可能になるエコシステム。

NotebookLM

しかし、現場には「作る時間」がない

「やりたい」という情熱と、「作れない」という現実

先生方は多忙です。
たとえシェアしたいと思っても、
ツールを開発するリソース
（時間・技術）が足りません。

そこで、「学校DX化で
わくわくをサポート」のような
外部パートナーが、その
「作る手間」を引き受けます。

NotebookLM

「わくわくサポート」が提供する解決策

現場の情熱を、外部の技術でカタチにする

共通言語ツール

カスタムAIチャットボット /
GAS Webアプリ

技術実装の代行

「こんな機能が欲しい」を
コード化 / アプリ化

ナレッジハブ

ポータルサイト構築 /
ノウハウの集約と発信

現場は「要望」を出すだけ。構築はプロに任せる「加速装置」としての役割。

NotebookLM

有料版を待つのではなく、今、動く

無料版の最適化は、将来への架け橋

NotebookLM

現実的なDXは、手札の最大化から始まる

予算がつくその日まで、今ある手札、外部の知恵、
そして学校間のつながりを組み合わせて、
したたかに業務を効率化しましょう。

お問い合わせ・ご相談

学校DX化でわくわくをサポート

- ポータルサイト作成
- AIチャットボット作成
- GASコードによるWEBアプリ作成
- 業務改善提案およびサポート

NotebookLM